



「藤沢周平と江戸を歩く」

高橋敏夫・呉光生/著・(株)光文社/発行

藤沢周平さんのいわゆる「江戸もの」が展開する場所を歩き、それぞれの物語やその舞台を楽しめる本です。愚息の住む王子飛鳥山を扱った「飛鳥山」の中からは、以前筑波山が望めた桜の名所『飛鳥山公園』や、時の人『渋沢栄一資料館』等に世界が広がります。



学校長・田中康之

「新・平家物語」

吉川英治/著・(株)講談社/発行

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」で始まる平安末期から鎌倉初期の平家と源氏の人間模様を綴った傑作だと思います。歴史を学ぶ意義は、そこに生きた人々の思考と行動を学び、同じような間違えを起こさないことですが、なぜか歴史は繰り返されます。皆さんが歴史を学んで、今後に反映できれば良い世の中になると思うのですが・・・。



高校3学年主任・数学 山本俊介

「江戸に学ぶエコ生活術」

アズビー・ブラウン/著・(株)阪急コミュニケーションズ/発行

日本の建築やデザインの美しさを世界に伝えてきたアメリカ人研究者が、今度は sustainable な社会を実現した江戸の暮らしに迫る。「just enough(足ることを知る)」の精神を理解すれば、地球を守るために私たちにできる事が見えてくる。英語の教科書(UNICORN English Communication II)の Lesson 10 でも扱われています。授業でも役立ちますよ!



高校3学年主任補佐・英語 山口彰郎

「杜詩論集」

吉川幸次郎/著・(株)筑摩書房/発行

杜甫のことは、吉川幸次郎先生のご著書が分かりやすい。特に、「秋野」第二首の易識浮生理(識り易し浮生の理)では、杜甫45歳までの文学青年から、59歳の死に至るまで、家族を抱えて流浪する不幸な家長を、涙無して読み込むのは難しいと言えるでしょう。



高校3学年アドバイザー・国語 伊藤俊雄

「人間はどこまで耐えられるのか」

フランセス・アッシュクロフト/著・(株)河出書房新社/発行

「歯を一本抜く程度ですよ。」治療に伴う痛みについては、ほとんど語る事のないジャーナリスト系の先生が、骨の検査のためにお尻から刺したドリルは、先生の手が時計回りに回るたびに、ぐりぐりと私の骨に突き刺さった。(人間が耐えた話)本文とは一切関係ありません・・・。



高校3学年副担任・理科 吉永裕史

「屍人荘の殺人」

今村昌弘/著・東京創元社/発行

「本格ミステリ大賞」など国内の多くのミステリー小説ランキングで入賞している作品です。序盤から普通のミステリー小説と違った意外な展開でビックリするでしょう。映画にもなっているので、そちらで観るのもいいかもしれません。



高校3学年A・B組副担任・英語 廣野翔平

「男道」

清原和博/著・(株)幻冬舎/発行

男としての生き方、勝敗の奥に秘めた「美意識」、「生き様」が色濃く反映された珠玉の1冊です。「番長」という仮面の裏側に隠された、誰も知らない清原和博の素顔を是非お楽しみください。



高校3学年C・D組副担任・公民 増田広和

「『面白い』のつくりかた」

佐々木健一/著・(株)新潮社/発行

授業中スベツてばかり・・・。伝え方を試行錯誤している私が、「面白い」とは何かを根本的に見つめ直すきっかけとなった1冊です。ディレクターとして数々の特集番組を企画、制作してきた著者が、仕事での学びを踏まえて「面白い」とは何なのか明言してくれます。



高校3学年E・F組副担任・国語 山野恵子

「旅猫レポート」

有川浩/著・(株)講談社/発行

号泣しました。主人公のサトルとナナの絆の深さに感動しました。2人と一緒に旅をしている気持ちになれます。お互いを思い合うやり取りに心が暖かくなります。



高校3学年G・H組副担任・保健体育 中原浩一

「一冊でわかる中国史」

岡本隆司/監修・(株)河出書房新社/発行

中国の映画に最近ハマったことをきっかけに、中国史を知りたいと思い、手に取りました。「漫画『キングダム』や『三国志』は中国ではいつの出来事?」「世界史や日本史に出てくる人物が中国史で活躍した時期は?」など、中国に関する趣味や勉強の疑問に答えてくれる1冊です。



事務職員・岡田茜